

DATA：口腔がんセンター

- 施設認定：地域がん診療連携拠点病院、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本口腔外科学会認定研修施設、日本口腔腫瘍学会口腔がん専門医制度指定研修施設
- 主な対象疾患：口腔がん治療全般

◀口腔がん
センターHP

口腔がんセンターとは

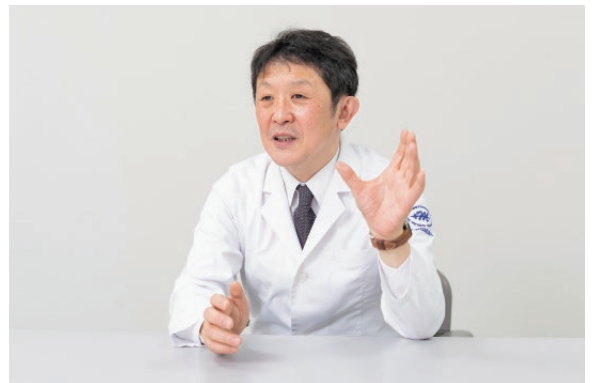
当センターは2006年に口腔がん治療に特化した施設として日本で初めて設立されました。現在は歯科医師3名、看護師1名、歯科衛生士1名で運営しており、当院の歯科・口腔外科のほか、東京歯科大学の水道橋病院、千葉歯科医療センターとも連携して治療にあたっています。現在、年間約100件の口腔がん手術を行っています。

当センターを設立する前は、それぞれの施設の口腔外科において、一貫した口腔がん治療を行っていました。しかし近年、がんの治療技術は進歩し、がんの特性やステージ、患者さんの状態によって手術、放射線療法、化学療法などを適切に組み合わせて治療する集学的治療が基本となってきました。もちろん口腔がんも例外ではありません。医科と連携し、より質の高い全身管理を行うため、総合病院である当院に口腔がん治療を専門とする「口腔がんセンター」を設けることになったのです。

現在、地域の医療機関からの紹介のほかに、東京歯科大学関連施設で診断された口腔がん患者さんを集約する拠点として、積極的に治療を行っています。



集学的治療で、口腔がんに挑む



チームで質の高い治療を

当センターに紹介される口腔がん患者さんは、進行がんの方も少なくありません。進行してしまうと大きく口腔組織を切除する必要が生じるため、切除部位の形態や機能を回復させる再建術が必要になります。当院の形成外科は、口腔がんにおける再建術に積極的に取り組んでおり、手術計画が決まった時点で再建術の計画を共に立案しています。

また、組織の欠損が大きい場合には、咀嚼機能を回復するために顎補綴治療が必要になりますが、当院には歯科インプラント治療も含め、全国でも数少ない顎顔面補綴学会認定医を持つ歯科医師が在籍しています(2022年1月現在)。さらに東京歯科大学の補綴科、インプラント科と連携して顎補綴チームを結成し、手術の方針が決まった時点で術後の状態を想定した補綴物の設計を行い、術後短期間で装着することで早期の機能回復を図っています。

私たちは、単に形態回復だけを目的とせず、口が持つ「食べる」「話す」といった機能の回復も目指しています。そのため、多職種による様々な支援チームが治療に参加します。

「摂食嚥下チーム」は、術前に患者さんの摂食嚥下

新しい治療の開発と、早期発見の体制づくり

口腔がんセンター

機能を評価し、術後にどこまで回復できるのかなどを検討して支援していきます。

「**栄養サポートチーム**」は、術後の状態に合わせた食形態の検討などを進めます。こうした手厚いサポートによって、術後早期に食事を開始することができています。

また、口腔がんでは様々な抗がん剤を用いるため、医科と緊密な連携をはかる必要があります。治療中の痛みや体調の悪化に対応する際は、「**緩和ケアチーム**」と適切に連携を取りながら治療を進めています。

さらに、口腔がんの場合、退院した後も摂食嚥下機能の低下や、リハビリテーションの必要性など、日常における問題を抱える患者さんは少なくありません。そのような患者さんの相談に乗り、患者さんを支える「**患者支援センター**」の存在は非常に大きなものがあります。

このように当センターでの口腔がん治療は、多くのスタッフに支えられており、これだけの体制を整備できるのも、総合病院内にある強みだと言えます。

切らずに治す動注化学療法

口腔がんの治療では、根治のための切除手術が標準治療となっています。予後はよいですが、超高齢者や全身状態が不良の場合、全身麻酔の手術は難しくなります。そこで当センターでは、切除せず治療する動注化学療法と呼ばれる新たな治療法にも取り組んでいます。

動注化学療法は、エックス線下で大腿動脈からカテーテルを挿入し、頸動脈を経て口腔がんの栄養動脈に直接抗がん剤を注入する方法です。静脈からの点滴に比べ、はるかに高濃度の抗がん剤を直接がんが届けることができます。この動注化学療法と放射線治療を組み合わせることで完治した症例もあります。

地域とともに早期発見を

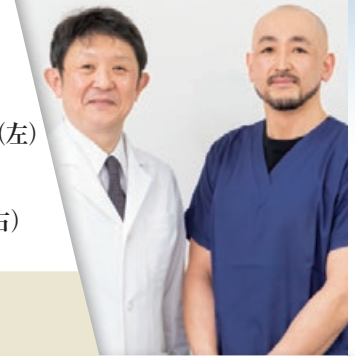
口腔がんは進行が早いため、患者さんのQOLを守る最善の対策は早期発見・早期治療となります。市川市や浦安市の

歯科医師会では、口腔がん検診を推進しており、当院も歯科医師会の協力のもと支援する体制を整えています。地域の先生方には、是非患者さんに口腔がん検診の受診を勧めて頂きたいと思います。また、2週間以上口内炎が治らないなどの症状でお困りの患者さんがいらっしゃる場合は、当院歯科・口腔外科へご紹介頂ければと思います。

日本では、口腔がんによる死亡者は増加傾向にあります。一人ひとりの口腔がん患者さんによりそった治療はもちろんのこと、地域の先生方と連携し口腔がんの早期発見に力を入れていきたいと思っています。

Dr's profile

Takeshi Nomura
野村 武史 歯科医師 (左)
Satoru Oogane
大金 寛 歯科医師 (右)



出身地

野村：東京都世田谷区
大金：茨城県水戸市

趣味

野村：学生時代は軽音楽部 (担当:ベース)、釣り (特にカワハギ釣り)
大金：料理 (最近はスイーツ作り)

口腔外科医・歯科医になったきっかけ

野村：生化学の卒業論文でがんに興味を持ったから
大金：歯科医師である父親の影響

スポーツ歴

野村：高校時代は競技スキー
大金：高校時代はラグビー、大学時代はアメリカンフットボール



座右の銘

野村：鬼手仏心、蒔かぬ種は生えぬ
大金：浅い川も深く流れ / 明日は明日の風が吹く (反対の意味ですが良いとこ取りで)

【掲載写真について】 感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)